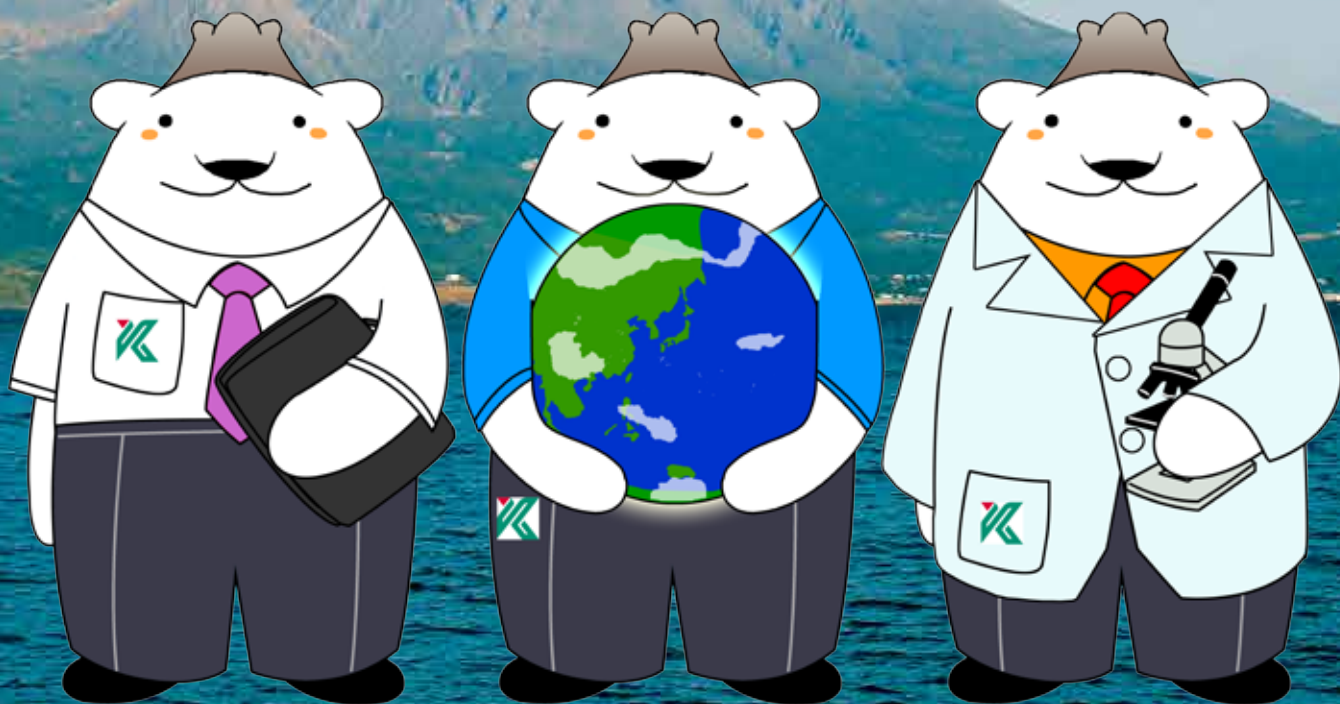




総合教育機構

地域人材育成 プラットフォーム

2024年度



地域活性化の拠点へ



鹿児島大学長
佐野 輝

「グローバルな視点を有する地域人材育成」 ～地域に根差し国際的にも活躍できる人材育成プログラム～

鹿児島大学は、南九州にしっかりと根を張り、鹿児島の地域性を生かした教育・研究に取り組むことで世界に先駆けた成果を導き出し、鹿児島から世界に発信するという「グローバル」な教育研究拠点となることを目指しています。

地域活性化の中核的拠点（地域の知の拠点）としての機能を強化する方策として、地域に根差した人材育成、教育改革に取り組んでいます。2017年度から地域人材育成を全学的かつ学部横断的に行うため、学生のみなさんに対し教育プログラム「地域人材育成プラットフォーム」を用意しています。

そのカリキュラムの起点となる科目「大学と地域」は、鹿児島の魅力や特色を様々な側面から紹介し、鹿児島が抱える課題について考える科目で、新入生全員に学んでいただきます。総合大学である鹿児島大学が有する多彩な専門分野の知を結集して全学的な協力体制を整備し、地域課題解決や地域活性化の重要な戦力となる人材の育成を目指しています。

さて、開学以来70有余年、鹿児島大学の歴史は、これまで卒業生約11万人、歴代の教職員数万人によって築かれ、卒業生は、鹿児島、日本全国、世界において活躍されています。これからも鹿児島県をはじめ地域社会と連携し、鹿児島大学の「地域の発展とともに歩むグローバル（グローバル）化」を実現したいと考えています。



鹿児島大学公式マスコットキャラクター
さつん



鹿児島県知事
塩田 康一

豊かで元気な鹿児島をつくっていきましょう。

鹿児島県は、南北約600kmに及ぶ広大な地域に広がっており、豊かな自然、食、歴史や伝統、お祭りなど素晴らしい地域資源が豊富にあります。また、本県の特徴の一つである離島には、それぞれに地域コミュニティや独自の自然、文化、伝統が存在するなど、その多様性が大きな魅力となっています。

現在、我が国は、本格的な人口減少や少子高齢化の進行、不安定な海外情勢による物価の高騰、グローバル化やデジタル化の進展、世界的な要請でもあるカーボンニュートラルの実現など、大きな変革期の中にあります。

私としては、こうした時代の潮流にも的確に対応しながら、県民の皆様と一緒に鹿児島の今と未来をつくることを基本として、誠実に、着実に県政の推進に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

中でも、本県の基幹産業である農林水産業及び観光関連産業の更なる振興に取り組むとともに、技術力の高い製造業や情報関連産業など新たな産業の創出にも取り組むことで、鹿児島の「稼ぐ力」の向上を図り、コロナ禍からの経済の回復を確かなものとするとともに、今後の鹿児島の発展の基盤をしっかりとつくっていく必要があると考えております。

そのためには、各産業を支える人材、新たな未来を切り拓いていく人材の確保・育成が不可欠です。

皆さんには、この「地域人材育成プラットフォーム」のプログラムを通じて、最先端の技術や知見、世界の情勢等を学んでいただくとともに、鹿児島の良さや魅力、課題を知っていただき、さらには、理解を深めながら、鹿児島の魅力を磨き上げることや、課題解決に必要なことなどを学び、将来、ここ鹿児島で未来を切り拓く人材として活躍されることを期待しております。

ぜひ一緒に「もっと豊かで元気な鹿児島」をつくっていきましょう。



© 鹿児島県ぐりぶー #656

「地域人材育成プラットフォーム」の全体像

「地域人材育成プラットフォーム」では、全ての教育プログラムに共通の目標として次に掲げる3つの能力を育成します。

- ① 地域を愛し、地域に貢献するために必要な教養、知識、ジェネリック・スキル
- ② 主体的に地域に関与する行動力、協働能力および地域課題を解決する実践力
- ③ 自らの能力を省察し、また常にリニューアルするために必要となることを発見、実践する能力

「地域人材育成プラットフォーム」は、地域人材育成を目的とした学部横断型の教育を展開する土台となるもので、以下の3つの教育プログラムから成ります。また、それぞれに【基礎】と【実践】が用意されています。その詳細は、次ページ以降で紹介いたします。

- かごしまキャリア教育プログラム
- かごしま地域リサーチ・プログラム
- かごしまグローバル教育プログラム

鹿児島大学には、全学的な教育を実施する総合教育機構と9つの学部があり、非常に多様な「知」を備えています。自分自身の関心や希望に応じて他学部等の授業も積極的に受講することで、身に付けた専門的知識をより高いレベルで活かすことができるでしょう。そのための仕組みが「地域人材育成プラットフォーム」です。

この「地域人材育成プラットフォーム」には3つのプログラムがあります。

かごしまキャリア教育プログラム

かごしま地域リサーチ・プログラム

かごしまグローバル教育プログラム

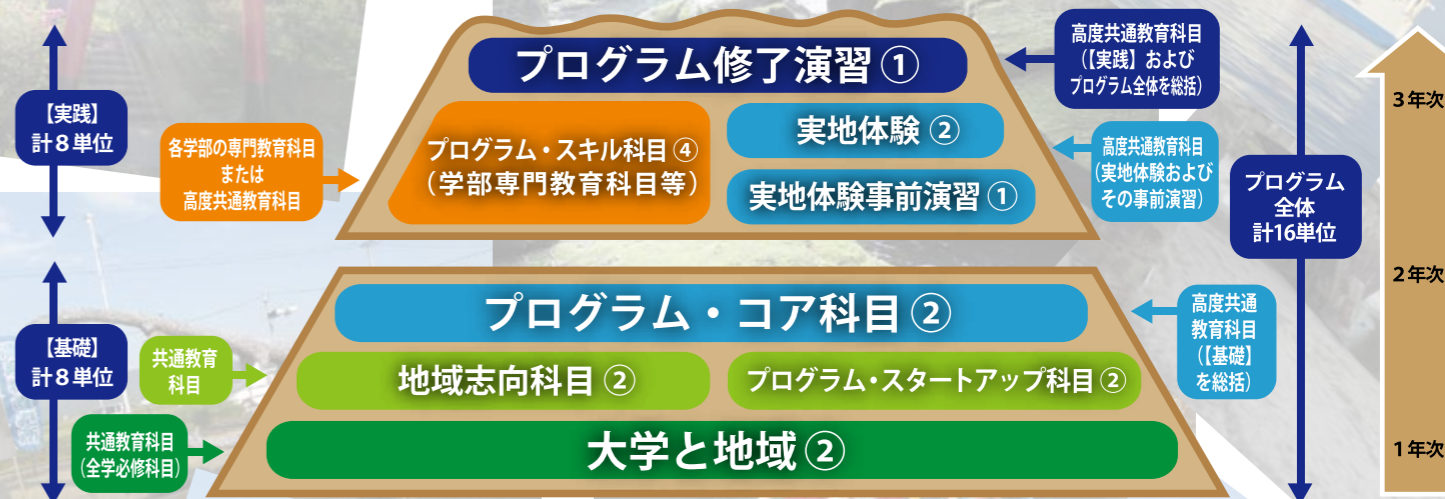
それぞれのプログラムは、【基礎】(計8単位)と【実践】(計8単位)に分けられます。

【基礎】は、全学必修科目「大学と地域」(2単位)を土台とし、プログラム・スタートアップ科目(2単位)、地域志向科目(2単位分選択)、「プログラム・コア科目」(2単位)から成ります。

【実践】は、【基礎】よりも実践に重きを置き、プログラム・スキル科目(4単位分を選択)、実地体験事前演習(1単位)、実地体験(2単位)、プログラム修了演習(1単位)で構成されます。

【基礎】を修了すれば各プログラム【基礎】の「修了証明書」が、【実践】まで修了すれば各プログラムの完全な「修了証明書」が交付されます。また、いずれの場合も、皆さんがどのような学習を経験し、どのような能力を身に付けたかを詳細に示す「学修履歴書」も発行されます。

【基礎】は2年生で、【実践】は3年生で修了できます。これらの書類は、皆さんの進路選択や就職活動において、自分の能力を示すものとして活用してください。



○内の数字は単位数を表しています。各プログラム専用の科目、共通教育科目、学部が提供する専門科目から構成されています。webサイトも参照してください。 <https://www.kagoshima-u.ac.jp/platform/> なお全てではありませんが、地域人材育成プラットフォームで修得した単位は、各学部の卒業要件単位に参入されます。

【基礎】

『大学と地域』(2単位)

1年次前期の全学必修科目です。鹿児島の「今」を生きた教材としつつ、大学で学ぶための論理的な思考力や課題発見能力を身に付けます。

『プログラム・スタートアップ科目』(2単位)

各プログラムでの学び方を考え、基礎的な力を涵養する共通教育科目です。これから自分がどのような学びを経験するのか、どのような能力を体得するのか、他の皆さんと議論しながら整理しましょう。

『地域志向科目』(科目リストから2単位分を選択)

共通教育科目のうち特に地域との関連が強い科目です。鹿児島や南九州地域の自然や社会、環境や文化についての理解を深めることができます。

『プログラム・コア科目』(2単位)

各プログラムの中核となる高度共通教育科目であり、【基礎】の締めくくりともなります。座学を中心としますが、実際に地域に出て活動することもあります。

【実践】

『プログラム・スキル科目』(科目リストから4単位分を選択)

各プログラムが育成する技能に大きく関わる科目であり、各学部の専門教育科目または高度共通教育科目で構成されます。自分の興味や希望に応じて学部を横断して学びましょう。

『実地体験事前演習』(1単位)

「実地体験事前演習」は高度共通教育科目として開講されるもので、インターンシップや実地体験の成果を高めるための予行演習の場です。実際に何かの問題がある状況を設定し、その解決に取り組むことを通じて能力向上を図ります。

『実地体験』(2単位)

「実地体験」は高度共通教育科目として開講されるもので、これまでに学んできたことを実際に活かす場です。職業体験をしたり、海外に行き文化的背景の異なる人々と交流したりすることを通じて思考力やコミュニケーション力を高めていきましょう。

『プログラム修了演習』(1単位)

「プログラム修了演習」は高度共通教育科目として開講されるものでプログラムの総まとめをするための科目です。これまで学んできたことを振り返り、自分の強みや関心に対する自己理解を深め、これからの学生生活や就職活動に対する意識を高めると同時に、具体的な行動目標を設定します。

注：高度共通教育科目については、13ページで詳しく説明します。

かごしまキャリア教育プログラム

「かごしまキャリア教育プログラム」は、自治体や地元企業との連携に基づいたカリキュラムを通じて、ローカルの現状や可能性について理解し、地域的課題の解決に取り組むことのできる能力の育成を目指します。同時にプログラム全体を通じて自己理解を深め、社会人基礎力の育成をはかります。

【実践】では、【基礎】で身に付けた知識や能力を、現実の就業の場において実践する段階に入ります。その中心は「地域キャリア・インターンシップ事前演習」（3年次前期）と、地元の自治体や企業等で行う「地域キャリア・インターンシップ」（3年次前期）であり、就業を体験しつつ同時に課題解決に取り組めます。さらに、プログラム・スキル科目である就業力科目（主として2～3年次）で、キャリア形成に必要な様々な能力を涵養します。そして、「地域キャリア修了演習」（3年次後期）でこれまでの学びを総括し、プログラム全体を修了します。



「かごしまキャリア教育プログラム」カリキュラム図 【基礎→実践】

【基礎】では、全学必修科目である「大学と地域」（1年次前期）での学びを踏まえ、まずプログラム・スタートアップ科目である「キャリアデザイン」（1年次）で自らのキャリア観を鍛えます。その上で、地域志向科目で地域について学び、さらにプログラム・コア科目である「社会人基礎力演習」（2年次）において、課題解決の方法や社会人基礎力を身につけます。

この教育プログラムで育成する能力は以下の通りです。

- ① 地域で活躍し地域のために貢献する意欲と能力
- ② 地域が有する潜在的な可能性や魅力について多角的に分析・評価し、その社会的価値を理解する能力
- ③ 企画立案・課題解決力を有し、組織の活性化及び地域の活性化に貢献する能力

受講生の声

農学部3年
中俣 愛梨 (鹿児島実業高等学校 出身)



入学当初、大学生だからこそできる体験を何かしてみたいと考えていた私は、パンフレットでこのプログラムを知りました。インターンシップに参加できるほか、座学だけではなく、社会人基礎力をはじめとする様々な能力を向上させる実践的な機会が多くある点に魅力を感じ、このプログラムへの参加を決めました。

プログラムの中では、他学年他学部の学生と協力して物事をやり遂げる機会が多くあり、普段の学部の講義とは異なる多様な経験をすることができました。加えて、社会人の方と働く実践的な機会は、将来について考えるきっかけとなりました。また、インターンシップを通して身につけた能力を実感できる一方で、今後の自身の課題に気づかされました。さらに、学び続けることの大切さと現場に足を運ぶことの重要性を自分自身の体験を通して知ることができました。このプログラムに参加したことは、今後の自身の専攻科目での学びに対しても大きな刺激となりました。

将来の進路について考え、自身を見つめ直すきっかけとなるプログラムだと思うので、ぜひチャレンジしてみることをお勧めします。

育成する人材像

育成する人材像は、自立しつつも他者感覚をもって協働する人物であり、ローカルについての専門家の卵です。組織的感覚をもって現場のパフォーマンスを高め、ローカルの課題や魅力を理解し地域の発展に寄与することのできる中核的人材とも言い換えられます。「かごしまキャリア教育プログラム」では、働きがいのある人間らしい仕事を選択し、地域社会のための生産的な仕事をこなせる能力を磨いていきます。

想定される進路

想定される進路は、まず鹿児島県をはじめとしたローカル社会での就業です。自らが活躍してみたいという職場であれば、県庁や市町村などの自治体とともに民間企業の全てが就職先となります。就職先は多岐にわたり、文系理系を越境したり大都市圏とローカルとを行き来するような活躍を見せる先輩もいます。

地域からの期待の声

岩崎産業株式会社
代表取締役副社長
岩崎 貴光



鹿児島は、食や歴史、温泉などの豊かな資源と暖かい気候に恵まれた土地です。アジアをはじめとする諸外国との距離も近く、交流人口を増加させるための高いポテンシャルを有しています。地域との連携を図る「地域人材育成プラットフォーム」の取り組みは、皆さんが暮らす鹿児島を肌で感じるまたとない機会です。「鹿児島を知る」という事は、鹿児島大学に通う皆さんだからこそ出来る新しいチャレンジでもあります。今後の鹿児島をより良くしていくためには若い世代の力が欠かせません。ぜひ参加していただきたいです。

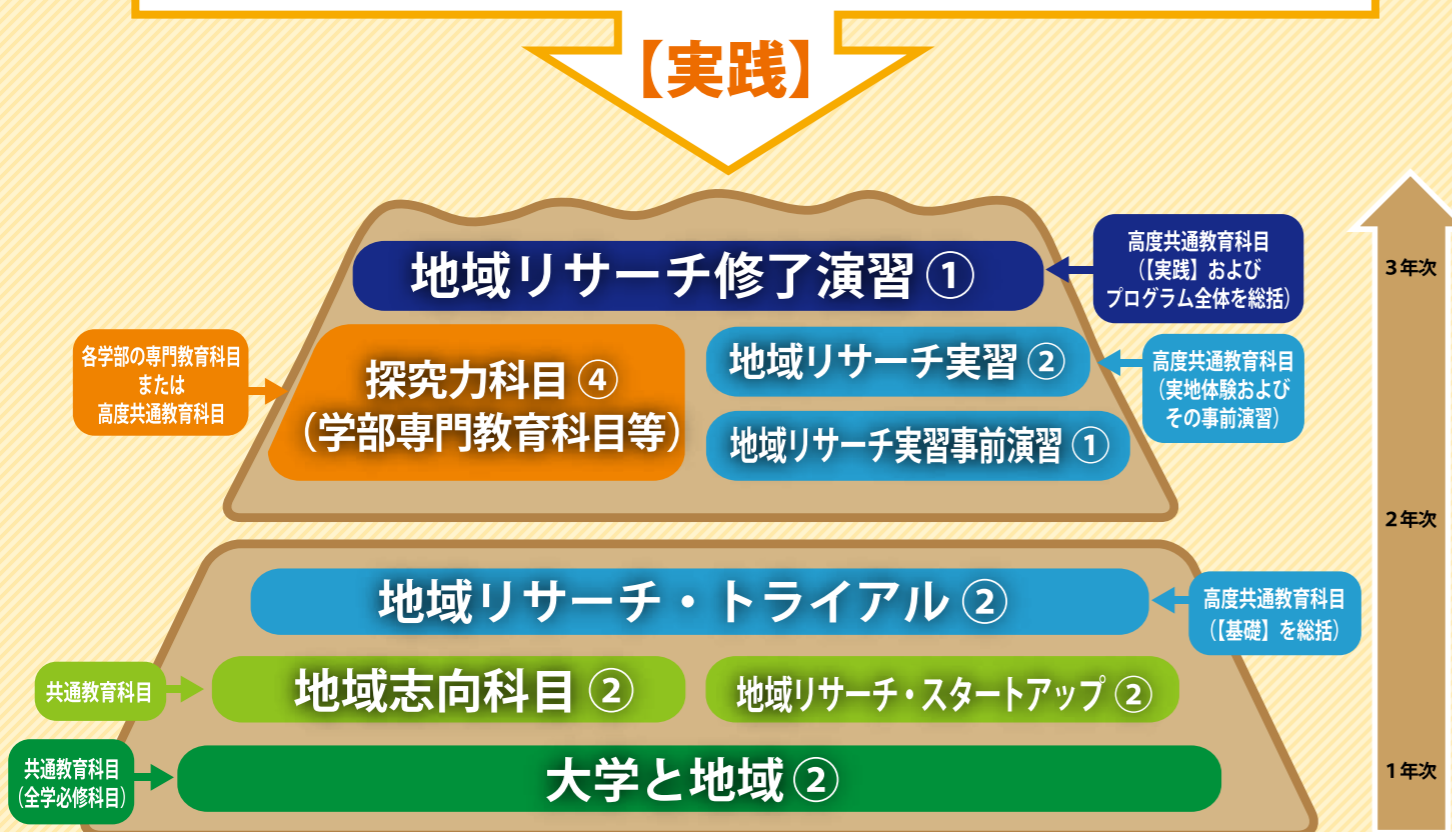
かごしま地域リサーチ・プログラム

「かごしま地域リサーチ・プログラム」は、地域の歴史や伝統文化、自然環境等の特性と課題について多様な視点から理解を深め、自身が暮らす地域の発展に寄与する能力の育成を図ります。地域課題を探究（リサーチ）するには、気になったことを思いついた順に調べればよいわけではなく、きちんとした方法論に基づいて行うことが重要です。適切な方法論に則って、自身の興味・関心を探究していきましょう。

この教育プログラムで育成する能力は以下の通りです。

- ① 地域資源を学際的・多角的に探究する態度と能力
- ② 地域について現実に則した分析をする能力
- ③ 専門性や関心の異なる他者と協働して、具体的な地域の課題を発見し解決する能力

【実践】では、【基礎】で身に付けた知識や能力を基盤としつつ、実践を重視した学びを展開します。その中心は「地域リサーチ実習事前演習」（2年次後期）と、鹿児島県の離島などで行う「地域リサーチ実習」（3年次前期）であり、自ら課題を設定してリサーチ活動を行います。さらに、プログラム・スキル科目である探究力科目（主として2～3年次）で、リサーチを行うために必要な専門的な能力を涵養します。そして、「地域リサーチ修了演習」（3年次後期）でこれまでの学びを総括し、プログラム全体を修了します。



「かごしま地域リサーチ・プログラム」カリキュラム図 【基礎→実践】

【基礎】では、全学必修科目である「大学と地域」（1年次前期）での学びを踏まえ、まずスタートアップ科目である「地域リサーチ・スタートアップ」（1年次後期）で地域の実情とリサーチの基礎を学びます。その上で、地域志向科目（主として1年次）で地域について学び、さらにプログラム・コア科目である「地域リサーチ・トライアル」（2年次前期）において実際に地域でのリサーチにチャレンジします。

受講生の声



法文学部 法経社会学科（地域社会コース）3年
矢神 明愛（鹿児島県立川内高等学校 出身）

地域活性化について学びたいという思いが入学前からあり、1年次に地域課題について広く学ぶ中で、知識と経験を積んで探求を深めたいと思うようになりました。特に2年次からは、フィールドに出ることで学部での専門的な学びを実践に繋げたいという思いも芽生え、プログラムの受講を決めました。

トライアルでは錦江町へフィールドワークに行き、仕事に重点を置いたまちづくりについて、取り組み内容や課題、取り組みを支える方々のお話を伺いました。座学ではイメージしづらい、地域課題の関連や施策の循環性といった実状を知ることができました。総括ではグループメンバーと共に、町で学んだ課題への取り組みを踏まえ、移住促進ポスターを作成しました。

このプログラムは共通教育で開講されているため、他学部の受講生と分野を横断して探求することができ、地域課題の多様な見方を学ぶことができます。それは、自分の専門分野が地域でどのように機能し得るのか俯瞰することにもつながると感じます。

ぜひ、フィールドワークを通して専門の学びと実践を往還できることを、プログラムの強みとして捉えていただければと思います。

育成する人材像

地域の歴史や自然環境等、自分が生活する場の特性について深く理解し、その活かし方を考えることができる人材を育成します。また、伝統工芸品をめぐる後継者問題やPR方法等、地域が抱える諸課題に対して根拠を明らかにしたうえで解決策を提案できる力を育てます。

想定される進路

このプログラムの学習を通じて、地域の資源について知ることができるだけでなく、知るための方法論を身に付けることができます。そうした力は自治体職員や研究員等として役立つものでしょう。また、このプログラムで芽生えた課題意識や探究心を活かして、大学院に進学し、さらに学びを深めることもできます。

地域からの期待の声



有限会社大瀬商店
代表 大瀬 輝也

私が仕事としている鹿児島県の伝統工芸品、本場大島紬は素晴らしい染織の技術ですが、年々衰退しています。

鹿児島の文化や伝統をどうしたら未来に繋げていけるのでしょうか？自分の周りの情報をどれだけ知っているかで自分も変わるし、環境も変えられるのだと思います。

縁あって鹿児島にいますので、鹿児島の事を知ることは得てしかないと思います。

このプログラムを通して情報の収集能力や分析力、発信力など素晴らしいスキルを身につけてください。

かごしまグローバル教育プログラム

2018年度から、「地域人材育成プラットフォーム」における3番目のプログラムとして新たに「かごしまグローバル教育プログラム」が始まりました。「かごしまグローバル教育プログラム」は、地域の課題をグローバルな視点で捉え、グローバルな人的ネットワークで他者と協働して課題解決に向けて行動できる能力の育成を目指します。授業は全学必修科目「大学と地域」以外は原則としてすべて英語で行われ、3年次に設定された海外実地体験では、事前演習から学生各自の問題意識に応じた学びを深め、

問題解決の糸口を探るProblem Based Learning (PBL)を行います。

この教育プログラムで育成する能力は以下の通りです。

- ① 地域文化の価値を深く認識しつつ、異文化と多様性を尊重して相対的に捉える能力
- ② グローバルな環境下で、地域課題を理解し建設的にコミュニケーションする能力
- ③ グローバルな人的ネットワークで他者と協働し、地域課題解決に向けて行動する能力

【実践】では、**【基礎】**で身に付けた知識や能力を基盤としつつ、実践を重視した学びを展開します。その中心は「Preparatory Seminar for Overseas Study」（2年次後期）と、実際に海外に出ていく「Study Abroad at Allied Universities」「グローバル実地研修」（3年次前期）であり、グローバルな視点で地域課題を捉えます。さらに、プログラム・スキル科目である多面的思考力科目（主として2～3年次）で、グローバルな学びに必要な知識や語学力を涵養します。そして、「Completion Seminar for Overseas Study」（3年次後期）でこれまでの学びを総括し、プログラム全体を修了します。



「かごしまグローバル教育プログラム」カリキュラム図 【基礎→実践】

【基礎】では、全学必修科目「大学と地域」（1年前期）の学びを踏まえ、スタートアップ科目「Intercultural Communication for Global Citizens」（1年次後期）で、異文化と多様性を尊重し相対的に捉える力を養います。併せて地域志向科目（主として1年次）で多面的に地域を学び、プログラム・コア科目「Confronting Kagoshima Regional Issues」（2年次前期）で他者と協働しグローバルな視点で地域課題を考察します。スタートアップ、プログラム・コア科目は外国人留学生と学びます。

受講生の声

歯学部3年



吉田 香緒（神奈川県立厚木高等学校 出身）

グローバル教育プログラムを通しての、他学部の学生や先生方、留学生との交流はとても充実したもので、新しい発見や学びが沢山あります。中でも、一緒に授業を受けた留学生達の行動力や発言力、自己表現力にはとても影響を受け、そのような自分の知らない環境や世界があることを「知る」ことが出来たことは一番の収穫です。

私は普段、桜が丘キャンパスに通学しており、プログラム・コア科目の授業がある曜日のみ、桜が丘での授業終了後に郡元キャンパスに足を運んでいました。移動は少し大変でしたが、それだけ価値のあるプログラムだと感じています。学年が上がり、自分の専門分野に関する学習が本格化すると、物事への関心の幅が狭まりがちですが、このプログラムへの参加を通して、広い視野を持ち続けることが出来ていると実感しています。

育成する人材像

「地域課題をグローバルな視点で捉え、協働できる人材」

グローバルな視野で自分、鹿児島や南九州、日本を理解して相対的に捉えることができる人、地域課題を見つけてグローバルな視点から考察できる人、グローバルな人的ネットワークで他者と協働し、地域課題解決にむけて行動できる人を育てます。

想定される進路

プログラムの学修を通して培ったグローバルな視点とグローバルに通用するコミュニケーション能力が強みとなり、活躍の場は、それらを求める民間企業、地方公共団体、NPO、NGO公益法人等あらゆる業種に拓け、就職や進学に有利に働くでしょう。地域資源の価値を発掘し県内産品を海外展開する等、現状では海外に十分に繋がっていない分野や企業の中でパイオニアとなること、世界のイノベーションを地域に取り入れたい、地域の多文化共生に貢献する進路も期待されます。

地域からの期待の声

鹿児島県立種子島高等学校
教諭 窪田 径子



入学前、語学力を培ったり自分の将来像を描いたりする中で、国際社会へ漠然とした思いを抱いた方は多いことでしょう。このプログラムでは、多様性を認め合い対話を重ねる協働学習を通してその思いを磨き、それぞれの自己実現に近づくことができると期待しています。また、多文化共生の視点を持って各専門分野から地域を考える大変価値ある学びを体験することで、これからの地域において表舞台でも身近な場面でも活躍されることを願っています。

履修の手引き

概要

地域人材育成プラットフォームの各教育プログラムでは、受講生の皆さんが体系的に学べるようにするため、段階的に履修するように科目を設定しています。科目によっては、受講前に別の科目を履修していなければ受けられない場合があるので、注意してください。自分が所属する学部の時間割を充分確認した上で、履修計画を立ててください。

履修要項

- **【基礎】**
- ① 『大学と地域』（共通教育科目〔全学必修科目〕）＜2単位＞
⇒1年次前期に履修
- ② 「プログラム・スタートアップ科目」（共通教育科目）＜2単位＞
⇒『大学と地域』の履修を前提として1年次に履修
- ③ 「地域志向科目」（共通教育科目）＜2単位＞
⇒1～2年次に履修
- ④ 「プログラム・コア科目」（高度共通教育科目）＜2単位＞
⇒「プログラム・スタートアップ科目」を履修した上で2年次に履修
- **【実践】**
- ⑤ 「プログラム・スキル科目」（専門教育科目または高度共通教育科目）＜計4単位＞
⇒4単位（そのうち少なくとも2単位は所属学部以外の学部の専門科目）を1～3年次に履修
- ⑥ 「実地体験事前演習」（高度共通教育科目）＜1単位＞
⇒2年次後期または3年次前期に履修
- ⑦ 「実地体験」（高度共通教育科目）＜2単位＞
⇒「実地体験事前演習」を履修した上で3年次に履修
- ⑧ 「プログラム修了演習」（高度共通教育科目）＜2単位＞
⇒「プログラム修了演習」以外の当該プログラム修了に必要な全ての科目を履修した上で3年次後期に履修（ただし「プログラム・スキル科目」は「プログラム修了演習」と同期に履修可）

注意事項

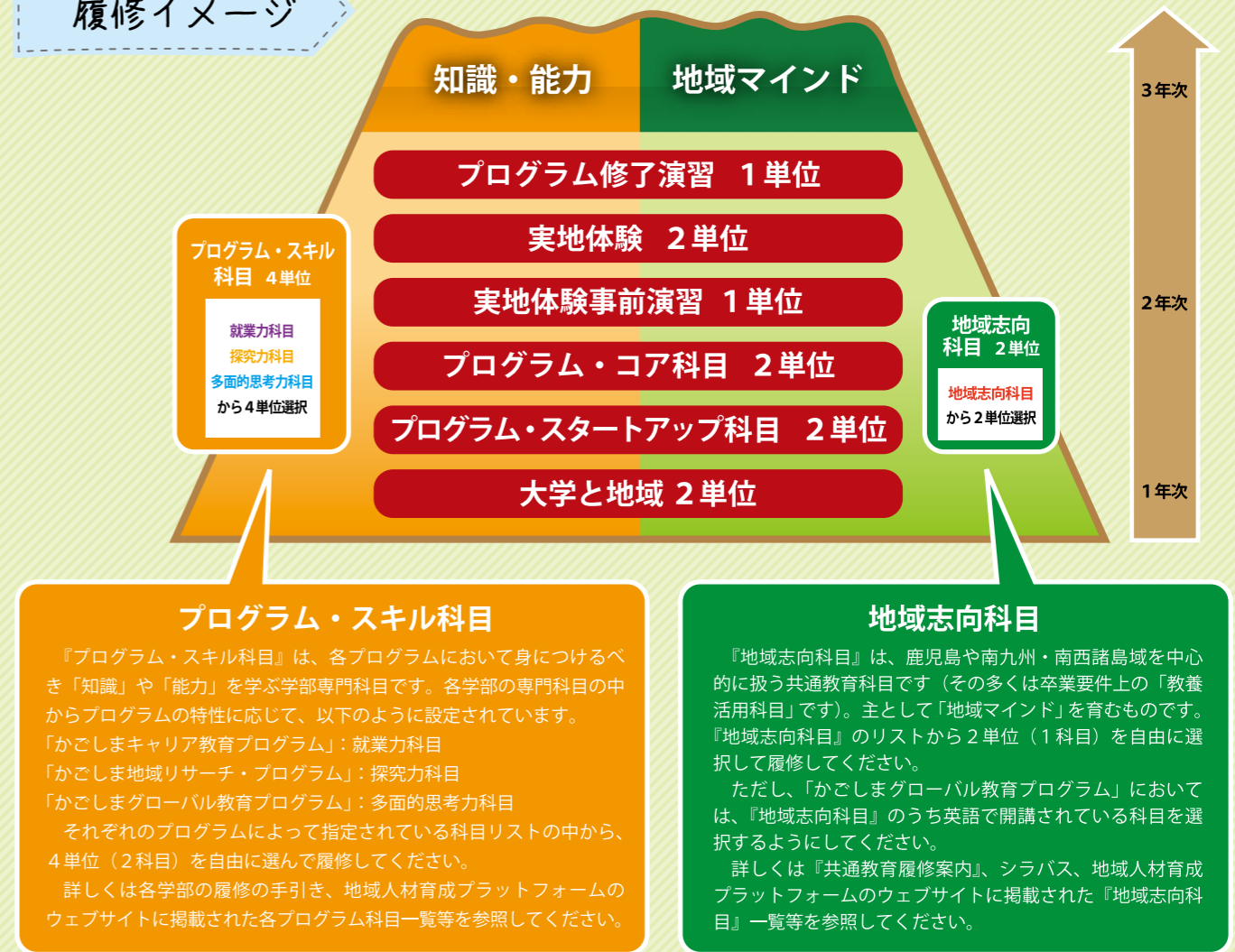
- 「地域志向科目」は共通教育科目として指定されています。リストから選択して履修してください。
- 「プログラム・スキル科目」は専門教育科目または高度共通教育科目として指定されています。リストから選択して履修してください。
- 時間割の都合などで受講しているプログラムのプログラム・スキル科目が受講できない場合は12ページの相談窓口まで連絡してください。
- 「かごしまグローバル教育プログラム」は、『大学と地域』を除き、英語で行われる科目を履修することとしています。やむを得ず日本語で行われる科目を選択する場合はかごしまグローバル教育プログラムの担当教員に相談してください。

地域人材育成プラットフォーム履修早見表

科目区分	学年	キャリア教育プログラム	地域リサーチ・プログラム	グローバル教育プログラム
全学必修科目 (2単位)	1	「大学と地域」		
プログラム・スタートアップ 科目 (2単位)	1	「キャリアデザイン」	「地域リサーチ・スタートアップ」	「Intercultural Communication for Global Citizens」
地域志向科目 (2単位)	1～2	『地域志向科目』群より選択		
プログラム・コア科目 (2単位)	2	社会人基礎力演習	「地域リサーチ・トライアル」	「Confronting Kagoshima Regional Issues」
プログラム・スキル科目 (4単位)	2～3	『就業力科目』群より選択	『探究力科目』群より選択	『多面的思考力科目』群より選択
実地体験事前演習 (1単位)	2～3	「地域キャリア・インターンシップ事前演習」	「地域リサーチ実習事前演習」	Preparatory Seminar for Overseas Study
実地体験 (2単位)	3	「地域キャリア・インターンシップ」	「地域リサーチ実習」	Study Abroad at Allied Universities or グローバル実地研修
プログラム修了演習 (1単位)	3	「地域キャリア修了演習」	「地域リサーチ修了演習」	Completion Seminar for Overseas Study

■ 共通教育科目（共通教育センターが開講） ■ 高度共通教育科目（共通教育センターが開講） ■ 専門教育科目（各学部が開講）

履修イメージ



修了年限の短縮について

地域人材育成プラットフォームの各プログラムは、【基礎】が2年次の前期、【実践】が3年次の後期に修了となるようにカリキュラムが組まれています。これは、各プログラムにおける学びを共通教育および学部での専門教育などの学修とリンクさせ、受講生の皆さんに能力を着実に身につけてもらうことがねらいです。

しかし、学ぶ意欲が旺盛で、かつ成績が優秀な受講生については、修了年限の短縮（【実践】を2年次後期に修了）の可能性があります。

詳細については、各プログラムの担当教員、または以下の相談窓口にお尋ねください。

相談窓口

総合教育機構 高等教育研究開発センター
(共通教育棟1号館5階)

学生部教務課教育企画係 ☎099-285-8826

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/platform/>

地域人材育成プラットフォーム

検索

分からないことがあれば
こちらに相談してください。
ウェブサイトにもアクセスしてください。



地域志向科目とは

地域志向科目とは、共通教育科目（教養教育科目）のうち「地域の諸課題の発見・探究・開発」あるいは「地域社会の発展に行動できる行動力の涵養」など、「地域」を扱う授業であると指定された科目のことです。地域人材育成プラットフォームの3つのプログラムいずれにおいても、【基礎】修了のためには地域志向科目の単位を**少なくとも2単位を必ず修得する**必要があります。できれば1年次に履修しましょう。

高度共通教育科目とは

高度共通教育科目とは、共通教育科目の一種ですが、2年生以上を受講対象者とし、学部によっては卒業要件上の専門教育科目として扱われる科目です。この科目は以下のように地域人材育成プラットフォームの「学部を越えた学び」において重要な役割を果たします。

プラットフォームにおける『プログラム・コア科目』、『**実地体験事前演習**』、『**実地体験**』、『**プログラム修了演習**』は高度共通教育科目です。具体的には以下の科目がこれに当たります。

	キャリア教育プログラム	地域リサーチ・プログラム	グローバル教育プログラム
プログラム・コア科目	社会人基礎力演習	地域リサーチ・トライアル	Confronting Kagoshima Regional Issues
実地体験事前演習	地域キャリア・インターンシップ事前演習	地域リサーチ実習事前演習	Preparatory Seminar for Overseas Study
実地体験	地域キャリア・インターンシップ	地域リサーチ実習	Study Abroad at Allied Universities or グローバル実地研修
プログラム修了演習	地域キャリア修了演習	地域リサーチ修了演習	Completion Seminar for Overseas Study

地域関連科目とは

地域関連科目とは、各学部の専門教育科目のうち、鹿児島や南九州地域に関する内容を含んだものを指します。地域人材育成プラットフォームとは直接的には関係しませんが、専門性を高める過程でも地域のことを学びたいと考える皆さんは、積極的に履修してみましょう。どのような科目があるかについては、ウェブサイトの情報を参照してください。

本学は、鹿児島や南九州地域で活躍することのできる高度な知識・技術を持った地域人材を社会に輩出する使命を持っています。ここでいう地域関連科目や、共通教育科目における地域志向科目は、本学が立地している鹿児島及び南九州地域に対する理解の深化とともに、この地域が抱える諸課題について共に考える中で能力を高めてもらいたいとの願いのもとに設定されました。是非、意欲的に学習に取り組んでみてください。

学部横断型の学び

地域人材育成プラットフォームは、鹿児島大学が全学的に、すなわち学部横断的に展開する教育の仕組みです。これには2つの意味があります。

1. 別の学部における学び

皆さんは学部や学科を選んで本学に入学してきました。自身の興味関心やキャリアを鑑み、学部や学科を選んだと思います。

その一方、「自分は物理学をやりたくて理学部に入ったけれど、実は歴史についても関心がある」とか、「農業に興味があるから農学部を選んだけれど、将来は農産物を活用した新しい商品の開発という仕事がしてみたい」など、学部を越えた学びを志す人も多いでしょう。

このように、プラットフォームにおける「学部横断」の1つめの意味は、「自分の所属する学部以外の学部での学び」ということとなります。これを実現しているのが、プラットフォームにおける「プログラム科目」です。

2. 学部を越えた交流による学び

プラットフォームにおける「学部横断」の2つめの意味は、「学部を越えた交流を通じた学び」ということとなります。

皆さんは、本学に入学して最初に受ける共通教育科目において、他の学部の学生と仲良くなったり、一緒に活動したりすることが多々あると思います。ですが、学年が進むにつれて、自分の学部での学びが中心となり、クラブやサークルの活動ではいるんな学部の学生と交流があるものの、大学での学びという観点では他学部の学生とは疎遠になるのが普通です。

しかし、プラットフォームでは「高度共通教育科目」において、2年生以降においても、学部を越えた交流を通じて学びを深めることができます。この「高度共通教育科目」は、卒業要件上の専門科目として見なされる場合があります（学部によって異なります）。

新型コロナ・ウイルスへの対応

世界的な新型コロナ・ウイルスの流行（コロナ禍）が始まってから4年以上が経過しました。その影響は経済や医療だけでなく学校教育にも大きな影響を与えました。もちろん、本学もその例外ではありませんでした。

ここまで見てきたように、地域人材育成プラットフォームの大きな特徴の1つとして「実地体験」が挙げられます。3つのプログラムのそれぞれにおいて、学生が大学から地域や海外に飛び出し、様々な経験と挑戦を経て、豊富な知識と高い能力を身に付けます。この学びは非常に有意義なものです。

しかし、コロナ禍においてはそれが非常に難しい状況にありました。そこで、2020年度以降はオンラインでの「実地体験」にチャレンジしました。企業でのインターンシップではテレワークのような形で企業のプロジェクトにオンラインで参加しました。また、オンラインで地域や海外を結び、ネットワークを活用した様々な学びや調査も実施しました。このような活動により、実際に現地に赴いた場合と遜色のないような学びを展開できました。

2023年5月には新型コロナ・ウイルスの感染症法上の取り扱いが変わり、学生が地域に出ていくハードルも随分低くなりました。2024年度も、もちろん感染症対策はしっかり実施した上で、受講生の皆さんが安心して「実地体験」に参加し、充実した学びを実現する予定です。



修了生の紹介

2017年度に総合教育機構が設置され、同時に「かごしまキャリア教育プログラム」と「かごしま地域リサーチ・プログラム」から成る「地域人材育成プラットフォーム」がスタートしました（「かごしまグローバル教育プログラム」は2018年度開設）。



修了生の声

法文学部3年 本門 航聖
(鹿児島県立甲南高等学校 出身)



かごしまキャリア教育プログラム 2023年度 修了

私は「かごしまキャリア教育プログラム」を通じ、社会人に求められる基礎的な能力や姿勢を学ぶことができました。自分とは異なる学部や学年の学生と共に学んだことで、良い刺激を受けながら成長することができました。たとえば私はこれまで人前で発言することに苦手意識を持っていましたが、学生間で何度も議論

をする機会があり、他の学生が積極的に発言する姿に感化され、少しずつ苦手意識を払拭することができました。また、実際のインターンシップでは、企業の方の前で堂々とプレゼン発表をすることができ、とても自信になりました。

1年生から段階的に講義に取り組む形になっているため、学部の勉強と両立することができるだけでなく、自分の成長を実感しながら貴重な経験を積み重ねることができます。

自分の今後のキャリアに悩みや不安のある人、大学生活の中で成長したい人におすすめのプログラムです。ぜひ参加してみてください！

修了生の声

工学部4年 豊嶋 美結
(鹿児島県立加治木高等学校 出身)



かごしま地域リサーチ・プログラム 2023年度 修了

このプログラムを通して、日常生活の身近なところにも学びの対象が多くあることに気付くことができました。地域の課題を発見してその解決策を論理的に考察し、さらにその解決に向けて「能動的に」取り組みを進める力を身につけることで、地域人材育成プラットフォームが掲げる目標を達成できたと思います。

私は奄美大島の伝統工芸品である大島紬について産業保存の可

能性をテーマにリサーチを行いました。インタビュー調査の準備や得られた情報の整理に加え、そこから結論を導き出すという取り組みの中で、先生方や共に研究を進める仲間の存在の心強さを改めて実感しました。長い時間をかけて1つのテーマに取り組めたことは大学生活の中でも特に貴重な経験となりました。また、リサーチを進める中で地元愛や鹿児島大学への期待を感じる場面が多く、身が引き締まる思いでした。

このプログラムでは、地元の方とふれあう機会や見聞きしたことをまとめて自身の意見を発表するといった機会が数多くあります。地域課題の探求に興味がある方、大学で積極的に学びを深めたい方は学部を問わずチャレンジしてみることをお勧めします。

修了生の声

法文学部4年 鳥居 智花衣
(鹿児島高等学校 出身)



かごしまグローバル教育プログラム2023年度修了

私は、このプログラムを通して初めての海外経験ということもあり、初めはすごく緊張しましたが、言葉も文化も季節も異なるパースで、毎日充実した生活が送れただけでなく、現地で学んだ

ことや気づいたことと鹿児島の良さや課題を照らし合わせながら自分で調査方法を考えて、多面的な視点に立って物事を考えられるようになりました。さらに、私は特にリスニングが伸びただけでなく、話すことも含めた英語の学習全体に対するモチベーションも向上したため、このプログラムに参加して良かったと感じています。大学生活で漠然となにか挑戦したいと思う方、海外に興味がある方はぜひ学部問わず参加してみてください！

担当教員からのメッセージ

かごしまキャリア教育プログラム

かごしまキャリア教育プログラムは、皆さんの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを目的としています。

スタートアップ科目である「キャリアデザイン」では、地域で活躍する多様なキャリアを有するゲストをお迎えし、講和形式で授業を進めます。そこでは、これまでの皆さんのキャリアを振り返り、今後のキャリアを形成するうえで「気づき」の場でもあります。

コア科目となります「社会人基礎力演習」では、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度、本プログラムでは「社会人基礎力」の育成を目的としています。具体的には、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性等を掲げています。これらの能力は、その後のインターンシップにおいても必要となる能力です。本科目では、地域における自治体・企業等の課題解決に向けたグループワークをととして、これらの能力の育成を目指し、その後のインターンシップへと接続していきます。

実際の「地域キャリア・インターンシップ」では、地域における自治体・企業等と連携し、それらが実際に抱えている課題に対し、具体的な解決策を企画・立案できる能力の育成を目指します。そこでは、主体的に創造性を働かせ、協働する力が求められます。



キャリア形成支援センター
助教 渡邊 和明

かごしま地域リサーチ・プログラム

「地域リサーチ・プログラム」は、1年次に「大学と地域」で学び始め、「地域リサーチ・スタートアップ」でさらに広く地域の課題を学んだ学生が受講し、地域におけるリサーチ力を身に付け発信する力を高めていくプログラムです。2年次の「地域リサーチ・トライアル」では実際に地域に出向いてその課題を抽出します。さらに学びたい場合は「地域リサーチ実習事前演習」で地域の調査方法を身に付け、3年次の「地域リサーチ実習」では自分自身で興味関心を持ったテーマを実際に調査して解決策を考察・提案し、「地域リサーチ修了演習」でその成果をまとめます。さらに、地域人材育成プラットフォームの成果報告会では多くの方々へ地域課題とその解決策を伝える機会を得ることができます。

学部や専門性にとらわれない課題を追求する機会、受講生同士で協力し刺激を与え合う機会、地域の方々との交流と協働できる機会など、みなさんの学ぶ喜びを地域に出向いて活動しながら体感できるプログラムになっており、卒業論文に繋がる問いを見つける先輩も出てきています。このプログラムを通してリサーチ力を高めたい、多くの実体験の伴う経験をしてみたい、自分の能力向上にチャレンジしてみたいというみなさんの受講を待っています！



共通教育センター
准教授 石走 知子

かごしまグローバル教育プログラム

「かごしまグローバル教育プログラム」は、地域の課題をグローバルな視点で捉え、グローバルな人的ネットワークで他者と協働して課題解決に向けて行動できる能力の育成を目指しています。スタートアップ科目「Intercultural Communication for Global Citizens」では、文化に対する認識、文化の相対性と物事の多様な捉え方を外国人留学生と共に学び、コア科目では、鹿児島が抱える問題を外国人留学生と共に多面的に考察します。海外で行う実地体験は、各自が定めたテーマについて調査し、その結果をまとめて英語で発表して修了となります。プログラム全体を通して、グローバルな人的ネットワークが構築でき、グローバルに活動するための知識・スキル・態度や視点・行動力が養えます。



グローバルセンター
センター長 尾崎 孝宏

総合教育機構の役割

総合教育機構は、鹿児島大学全体の学修を支える組織です。
その役割の1つとして、学部を越えた学びによる地域人材の育成があります。

学士の質保証

大学を卒業するとき与えられる学位が「学士」です。どの大学を卒業しても、どの学部を卒業しても、また、どの国の大学を卒業しても、与えられるのは同じ「学士」です。各大学は、輩出する「学士」が十分な能力を備えられるように充実した教育を行う責任を負っています。これがつまり、学士の質を保証する責務ということです。
鹿児島大学では、社会の問題を発見し、その解決策を論理的に考え、さらにはその解決に能動的に取り組むことのできる知的教養と専門性を備えた「学士」の育成を目指しています。「学士」にふさわしい論理的思考力や専門的知識の活用力を育成するとともに、そうした力を身に付けていることを社会に示す場を充実させていきます。

地域人材育成

鹿児島大学は、鹿児島・南九州地域における「地域活性化の知の拠点」としての役割を担っています。中でも最も重要なのが、地域活性化に貢献できる人材の育成です。高い能力を備えた卒業生を地域に送り出すことが求められています。
地域活性化に貢献できる人材、すなわち「地域人材」として、鹿児島大学では地域に対する愛着や発展に貢献したいという意欲をもって課題の解決に能動的に取り組むことのできる「学士」を輩出します。そのための新たな取り組みとして、9学部を有する総合大学としての強みを活かした「地域人材育成プラットフォーム」を開設し、「地域人材」育成に取り組んでいます。

共通教育の 実質化・高度化

多くの皆さんは、特定の専門分野に関心をもって大学に入学したのではないのでしょうか。ですが、専門的知識をただ覚えているだけでは不十分であり、そうした知識を社会にある問題の解決に活かす力が必要です。
社会の状況を的確に把握したり、自分の考えを他者に分かりやすく伝えたりするために必要な論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けるためにあるのが共通教育です。鹿児島大学では、学生生活とその後の社会生活の基礎体力となるこうした力を着実に育成していきます。

全学支援体制



学部

総合教育機構

学内共同
教育研究施設等

「地域人材育成プラットフォーム」の運営主体は総合教育機構です。各プログラムのうち、共通教育の運営と全体のコーディネートを行います。全学必修科目である『大学と地域』や各プログラムの必修科目の他、「地域志向科目」や「実地体験」や「プログラム修了演習」の学習成果向上を継続的に実施します。海外研修の実施に当たっては、そのコーディネートも行います。

学部は、それぞれの専門教育の運営主体です。「地域人材育成プラットフォーム」は学部横断型の教育プログラムのため、学生はそれぞれの目的に応じて自学部の専門教育科目のほか、他学部の専門教育科目をも受講します。これらの運営や質保証の取り組みについては、学部ごとに責任をもって行います。

本学には学内共同教育研究施設等として附属図書館や総合研究博物館など様々な教育研究施設があり、皆さんの学びをハード面でもソフト面でもしっかりサポートします。これらの施設をはじめ、学内からの支援・協力によって「地域人材育成プラットフォーム」は支えられています。

総合教育機構の各センター紹介

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育（大学）について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査研究や全学的な教育課題の解決に向けた提案、教育の質保証に向けた教職員の能力開発を行います。限られた資源を有効活用して高い教育成果、学習成果を挙げるための方策を立案、実施する主体としての役割が期待されています。

また、「地域人材育成プラットフォーム」のコーディネートを担当するのもこのセンターです。プラットフォームは地域人材育成の基盤となるだけでなく、鹿児島大学における教育改革にとっても重要な牽引役となるものであり、その質的向上は将来にわたる重要な課題なのです。

共通教育センター

共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負う組織です。共通教育は、どの学部の学生も必ず受講するものであり、多くの学部では卒業に必要な単位数の約4分の1を共通教育が占めています。

特定の専門分野に対して関心をもって入学してきた学生にとって、共通教育の意義はなかなか分かりにくいでしょう。しかし、いくら専門知識を習得しても、それを社会にある課題の発見や解決に活かすことができなければ意味がありません。物事についてどのような筋道で考えればよいか、他者と円滑なコミュニケーションを行うにはどうすればよいか、といった、専門分野を問わず社会人として重要な基礎的能力を身に付けるための場が共通教育です。

共通教育センターでは、教育内容や方法の改善に向けた取り組みを恒常的に展開します。特に、アクティブ・ラーニング型授業の拡充に努め、能動的に学ぶことのできる学生の育成に努めます。

キャリア形成支援センター

キャリア形成支援センターは2020年4月に設置された新しいセンターです。本センターは、科学技術の発展と技術革新の加速化によって産業構造が急激に変化する現代社会において、大学生が社会や時代とのかかわりの中で知識や能力を持続的に開発しつづける個人特性をもつことができるように応援します。

入学時からの体系的なキャリア教育、それに正課外のキャリア支援、インターンシップやキャリア・就職相談等を充実することにより、学生の多様なキャリア形成を全学的な立場から支援します。

また、「地域人材育成プラットフォーム」のキャリア教育プログラムを担当するのもキャリア形成支援センターの役割です。さまざまなキャリアについて理解し、地域の人々より多くのことを学ぶ機会を作り出していきます。

グローバルセンター

グローバルセンターは大学全体の中で非常に多くの役割を担っていますが、特に教育に関しては、海外で学ぶことを希望する鹿児島大学の学生、鹿児島大学で学ぶことを希望して留学してきた学生に対してそれぞれの状況やニーズに応じた学習のコーディネーターとして機能しています。

海外留学は学生の成長にとって大きな意味を持つものですが、その成果を向上させるには留学目的の明確化やキャンパス内での学びとの接続等、事前に考えておくべきことや終了後にすべきことが多々あります。カリキュラム全体の中に留学をどう位置付けるかという視点に基づいて、留学をより意義深いものとするためにともにあるのがグローバルセンターです。

同様に、留学生の学生生活をより有意義なものとするには、学ぶために必要な日本語力の向上だけでなく、日本人学生との関わりや地域での活動への参加などが重要な役割を果たします。卒業・修了時には日本人と同じ学位を取る留学生に対しても、また、短期滞在の留学生に対しても、それぞれの目標達成に向けた教育の実施と学習支援を行います。

中等・高等教育接続センター

中等・高等教育接続センターは、高校をはじめとする中等教育での学びを、鹿児島大学での学びへとスムーズに（つなげる）ことで、教育研究活動の質を高めることを目指しており、主に次の3つの事業に取り組んでいます。

第一に、鹿児島大学での学びに適した学生に入学してもらうための、入学試験の開発や改善に関する業務です。入試データや入学者の追跡調査の分析・評価を行い、入試のありかたを検討する際の方向性やエビデンスの提示、先進的な入学試験の開発・改善などを行います。

第二に、入試の合格者を対象とした入学前教育です。大学での学びは、高校にはなかった専門分野をゼロから学び始めることもあれば、高校での学習内容を基盤として発展させていくものもあります。鹿児島大学の入試は受験生の多様な学力を評価するので、入学生の〈得意〉と〈苦手〉もまた多様です。そのようなすべての入学生が鹿児島大学のカリキュラムで十分な学習成果を得られるように、体系的な入学前教育を行うことが重要になります。

第三に、全学的な入試広報です。鹿児島大学での学びが豊かなものになるかどうかは、受験生の興味関心と大学の教育研究環境のマッチングにかかっています。そのようなマッチングの精度を高めるために、高校生や保護者、高校教員等を対象とした入試広報活動を企画し、受験生と大学のコミュニケーションの機会を創出しています。

稲盛アカデミー

稲盛アカデミーは、鹿児島大学の卒業生である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）および京セラ株式会社からの寄付によって鹿児島大学に設置された『稲盛経営技術アカデミー』を、平成20年4月に改組して生まれた組織です。稲盛アカデミーでは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」を基本理念とした授業科目を開発し、共通教育や履修証明プログラムとして提供しています。また、様々な体験の場を提供し、その中で学修者が自らの理念やビジョンを模索し、真のリーダーのあるべき姿を探求しつつ、実行力と責任感を体得させることで、人間力の総合的育成をめざしています。

【相談窓口】

総合教育機構 高等教育研究開発センター
(共通教育棟 1号館 5階)

学生部教務課教育企画係 ☎099-285-8826

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/platform/>

地域人材育成プラットフォーム

検索

